



発行 公益社団法人
武蔵野市シルバー人材センター
編集 広報編集委員会
武蔵野市中町 3-5-16
電話 0422-55-1231 (代)
URL http://www.musashino-sc.or.jp/

218(秋)号 もくじ

- ウィズ・コロナで思うこと…………… 1
- 「突撃レポート現場へGO」…………… 2～3
- 新シリーズ 接遇とマナーのポイント
「ここがポイント」…………… 4 NEW
- 「SC NOW」…………… 5
- 私のふるさと…………… 6
- リレーエッセイ、私のチャレンジ教室…………… 7
- ひろば、新入会員紹介、お亡くなりになった方、
編集後記…………… 8

ウィズ・コロナ（ポストコロナ）で思うこと

会長 加藤之義

7月末ごろが感染のピークと発表され、8月9月と感染がスローダウンの傾向ですが、3波・4波の可能性が残っているようです。

- 9月6日の新聞で以下のように報道されています。
- ・日本全国で1日に599人感染、累計で7万人超、死者は1,300人超。
 - ・世界全体では、1日に31万人強が感染、累計で2,600万人超、死者は87万人超。

過去の教訓としての「スペイン風邪」を整理しておきますと、

1918年、アメリカ・ヨーロッパから発生した、このパンデミックは当時の世界総人口の4分の1、5億人が感染、4,000万人が死亡したとされています（一説には1億人とも）。日本でも当時の内務省発表で、2,300万人が感染、38万人が死亡したとなっています。今回のコロナとはけた違いです。まだまだコロナの終息見通しがたたず、予断を許しません。

コロナの終息と経済の両立が方向付けされていますが、海外からの観光客（インバウンド）が途絶え、観光産業中心に大打撃を受けるなど、難しい局面にあります。

当センター会員での感染者は幸いにも現在確認されていません。皆様のご対応に感謝いたします。

会員各位の生活環境が違います。2世帯・3世帯同居の方から独居の方までおられます。ウィズコロナとしての心構えを整理してみます。

1. 同居人のいる方は、外で活躍する世代の方との

- 接触に十二分の配慮が必要です。食事中や一家団欒時の会話など、極力短時間にするなどお考え下さい。
2. お1人あるいはお2人の方々は、お互いに重症化リスクの高い高齢者を意識し、外出時のマスク着用や帰宅後の素早い手洗い・うがいの徹底が大切です。買い物に出掛ける際は、極力短時間を心掛けることも必要です。
 3. 電車・バスでの外出では、マスク着用と、ほかの人とのソーシャルディスタンス確保と、同行者との会話で大声を出さない配慮も必要となります。

皆さんがご存じのことばかり書きました。終息までまだまだ時間がかかりそうです。冬に向かってのインフルエンザも心配です。

コロナを恐れ、家に閉じこもっては、他の病気が心配です。適度な運動と、適度な友人・知人との交流は心身の健康維持に不可欠です。時間を見つけてセンターに足を運び、「3密」を避けて仲間と交流してください。

また、万が一、各位が感染の場合、センター事務局にご一報くださいますようお願いいたします。



以上

▲国立感染症研究所提供

突撃レポート 現場へGO!

私の就業体験記

前号でお知らせした、会員の皆さんからご要望が多かった「就業体験」について、今号からシリーズで紹介していきます。初回の今号は「除草班」、鹿村さん(76歳)と浅利さん(72歳)のお2人にお話を聞きしました。



「除草班」の巻



鹿村和彦さん

浅利和之さん

——シルバー人材センターの数ある仕事の中から、除草班の仕事を選ばれたのはなぜですか？

鹿村和彦さん 私は元々、施設管理の仕事をしていますが、「除草班が人手不足」ということから、お手伝いのつもりで始めました。

浅利和之さん 私も、駐輪場管理、そして施設管理に従事していて、声をかけられてお手伝いするようになりました。鹿村さん同様、今も施設管理の仕事と両方に従事しています。

——お二人はペアで仕事をされているとのことですが、グループで従事するのですか？

鹿村 そうですね、普通は数名単位で担当しています。私は施設管理の仕事があるので、たくさんの時間は取れません。そこで、他の方たちでは担当できない短時間の細かな注文を引き受けています。一戸建ての家の庭もあれば、マンションの一角もあって、様々ですね。

——お仕事をされていて、大変なこと、苦労されるのはどんなことでしょうか？

浅利 外での仕事ですので、夏の炎天下の暑さは堪えますし、虫にも悩まされます。夏は虫よけに長袖長ズボンで、蚊取り線香は必需品。冬の寒い時は厚手のセーターにマフラーを頭からかぶっての作業となります。つらいのは、長時間



しゃがんでいるので足腰が痛むこと。なかなか立ち上がれないこともしばしばです。

——実際の作業は、どのように？

鹿村 作業は、場所によって違いますが、植木班の前に出勤して除草する場合がありますし、様々です。除草は、雑草を根っこから刈り取ったり、引き抜くので力が必要で、大変疲れます。

1回当たり、3～4時間の作業で、夏場は暑いので午前中で終わらせることが多いです。

——お仕事をされて、うれしいこと、やりがいを感じることに、大切なことは、なんでしょう？

鹿村 一番うれしいのは、仕事が終わって、お客様から喜び・感謝の言葉をかけられる時ですね。疲れを一気に忘れさせてくれます。

大切なのは、お客様との「信頼関係」を築くことですね。労をいとわず、お客様の要望に応えられるよう努力することが、それにつながりますね。臨機応変な対応が大切です。

浅利 私も作業が終わって、キレイになった現場を見ると、うれしいですし、お客様から感謝の言葉をいただくと、「また頑張ろう」という気持ちになりますね。

項目	内容
仕事の内容	個人宅（一戸建て、マンションなど）の庭の除草
仕事の場所	個人宅（一戸建て、マンションなど）
仕事の時間	通常3～4時間程度/回
就業の人数	通常2～6名程度/回
平均的収入	5～8万円/月（夏期・繁忙期） ※配分金1,050円/時
事務局担当	小木曾、中継

職種分類一覧表

職種名	仕事内容	就業場所	就業時間・回数	就業人数
広報紙配布班	武蔵野市発行の「市報むさしの」「市議会だより」「きょういく武蔵野」等を市内全戸に配布する(1人当たり約300部担当)	住居周辺の配布地区	概ね2～3時間、市報1日号、15日号：各1回(月2回)	就業時1名 従事者255名
学校施設管理班	市内小中学校の施設開放の管理と開放事務管理(学校内定期巡回、施錠・消灯などの確認作業あり)	市内小中学校(全19施設)	◇平日：16時～21時15分 ◆土日祝：8時30分～15時15分～21時15分 ※月10日程度	就業時1名 (4名でローテーション) 従事者約80名
緑化班	市内の公園などの除草、清掃	市内公園ほか	除草：月～木 7時～13時 清掃：月・水・金 13時～15時	就業時数名 従事者23名
浄水場清掃班・水道部清掃班	浄水場などの清掃	市内浄水場ほか		就業時4名 従事者8名
学校施設清掃班	指定された市内学校の施設の清掃	千川小、四中		就業時4名 従事者8名
ふれあい訪問収集班	身体の不自由な方のお宅を訪問し、安否確認と日々のゴミ出し作業を行う	担当の各家庭	ゴミ収集日の朝(8時～9時ごろ)	就業時1名 従事者62名
便利班	家具の移動、粗大ゴミ(タンス、食器棚、ベッドなど)の撤出、窓ガラス・換気扇の清掃など、さまざまな仕事	各家庭	依頼時 2時間程度/回	就業時数名 従事者32名
駐輪場管理	デパート、スーパーなどの駐輪場で駐輪の受付、自転車の整理などを行う	デパート、スーパーなどの駐輪場	4～5時間程度/回 (通常は複数名でのローテーション勤務)	就業時1名 従事者39名
家事援助・子育て支援	「家事援助」「子育て支援」の必要なお家庭での援助業務	各家庭	2時間程度/回	就業時1名 従事者180名
植木班	家庭の庭、マンション庭部の植木の剪定(せんてい)など	各家庭、マンション庭	依頼時 2～7時間程度/回	就業時数名 従事者37名
ふすま班	各家庭の障子、ふすま、網戸などの張替え作業	各家庭	依頼時 数時間程度/回	就業時1名 従事者5名
除草班	家庭の庭(一戸建て)やマンション共有部などの除草	各家庭、マンション庭	主に午前中 3～4時間程度/回	就業時数名 従事者30名 7班集体
マンション清掃	民間のマンションなどの共用部分の清掃	各マンション共有部	主に午前中2時間程度/回	就業時1名 従事者約120名
筆耕班(毛筆・硬筆)	民間企業・公共機関などの賞状などを手書きで書く	基本は自宅	依頼内容による	就業時1名 従事者6名
手芸・小物班	人形・ポーチなどを作成し、定期的に販売する	シルバー人材センター2階ほか	毎週水・木曜日 10時～15時	従事者18名
リサイクル班	①家具・自転車などのリサイクルと販売 ②その他の小物・雑貨・食器などの販売	シルバー人材センター1階ほか	◇平日：10時～16時 ◆第4土曜日：10時～16時	従事者22名 4グループ制(家具、自転車、運転、会計)
補習教室	小・中学生を対象とした授業の補習(国語、算数(数学)、英語)	市内3か所(中町、吉祥寺、桜堤)の教室	夕方2時間程度/回	就業時1名 従事者20名
パソコン教室	パソコンのスキルアップを目標とした教室	シルバー人材センター2階	平日2時間程度/回	就業時1名 従事者7名
その他	登下校時の交通安全内、季節的な運動施設管理、無断駐輪の防止管理など、時期限定の仕事			

※上記職種は令和2年3月31日現在の一覧表です

※就業時間、就業人数は令和2年9月現在の数字です

新シリーズ 接遇とマナーのポイント👉

第1回 大切なのは「市民目線」

今号から、新シリーズ「接遇とマナーのポイント」をお届けします。今、シルバー人材センターの就業で求められていることの一つが、「市民目線」の大切さです。公的機関としての「姿勢」を保ちつつ、「親しみやすさ」と「親切」を表現するにはどうしたらよいのでしょうか。東京しごと財団の渡辺久美子先生のお話から、そのキーポイントを探ってみることにしました。

武蔵野市シルバー人材センターの多くの会員の皆さんは、日々責任と自覚をもって、その使命である「安全と安心」を第一に、就業や地域活動・社会貢献活動に励んでおられます。そのおかげで、様々な案件のご依頼や、おほめの言葉もたくさんいただいています。

就業内容を「誠実・正確にやり遂げる姿勢」「挨拶の徹底」「先手の声かけ」「きめ細やかな気づかい」などの皆さんの基本的姿勢が、利用者・発注者から高い評価を得ているわけです。

一方で、そうした「できて当たり前」のことがおろそかになり、個人の勝手な判断や立ち居振る舞いから、利用者・発注者から改善の指摘を受けていることも、残念ながら事実です。

もちろん、注意深く取り組んでいても、トラブルを全くなくすことは難しいでしょう。価値観の多様化と共に、様々な考え方・意見をお持ちの方がいますので、理不尽に感じることも多いのではないかと推測します。同時に、時代と共に会員の意識や言動も変化しているため、会員同士が、その価値観の多様性に合わせていくことも求められています。

さらに、時代背景やシルバー人材センターの知名度の高さの変化と共に、以前より「見られている意識」「緊張感の高さ」が求められることが多くなってきました。

会員の皆さんが「自分はちゃんとやっているつもり」でも、それは利用者の「受け取り方」によって決まってしまうのも事実です。

会員としての基本姿勢＝

安全・安心 / 自主・自立、共働・共助

そこで、「揚げ足取り」「不要な誤解」を招かないためにも、次の5項目を徹底していくことが必要となります。

1. 決められたことを当たり前に行う
2. 何かあった時は潔く謝罪や相談をする
3. 同じ誤りを繰り返さないよう対策を講じる
4. 正しい接遇を身につけて自身の身を守る
5. 自己判断せずに速やかに報告・相談をする

そして、利用者や発注者と良好な関係を築くためには、次の4項目が大切になります。

1. できて当たり前の技術である「心と態度の表現力+正確な知識」を積み重ねる
2. 「利用者・発注者の立場に立ち、相手の視点」で言葉を選び、態度を示す
※「ルール変更があっても過去のやり方に固執し、新しいやり方に順応しにくい」「だからシルバーは使えない」という発注者の指摘あり
3. 「時代変化」を受け止める
4. トラブルを「未然に防ぐ」方法を知り、小さなうちにおさめる
※「高齢者・障がい者・日本語が母国語でない方の対応」には十分な配慮を

次号からは、具体的な事例を挙げて、皆さんと一緒に、その様々な対応について考えていきたいと思えます。





元気が出る催物を開催します！

交流会からの
お知らせ

「数独を楽しむ会」を開催

「数独を楽しむ会」を8月12日、講習会室で開催しました。参加者は13名とにぎやかに！ 集まった方には、「数独」に日ごろから親しんでいる方もおられるように思われましたが、全く知らない人もおられるようでした。

講師は、吉祥寺東町の安田亨祐さん。講師の自己紹介から始まり、準備された問題シートを使った説明と数独の解き方に進みました。タテ・ヨコ3個のマスに、1から9の数字を入れるというものですが、この矩形がタテ・ヨコ合計9つあり、各々タテ・ヨコの数字が関連しており、全体でタテ・ヨコには同じ数字は入れられないルールがあります。最終的には、3×3の9つに予め指定されている3か所の数字が決定できれば良いのですが…。私の隣の方は、説明の半分くらいで完成していました（私は講義が終わって10分やってもできませんでした…）。



▲安田さんの説明に聴き入る参加者の皆さん

次は葛飾柴又“寅さんツアー” —交流会の散歩会の予告です—

交流会検討会では、10月28日(水)の“横浜イングリッシュガーデン”に引き続き、11月18日(水)に葛飾柴又“寅さんツアー”を計画中で、小野さん(吉祥寺北町)、伏野さん、青木さん(共に吉祥寺東町)の3名が中心となって、実施計画を準備しています。すでに3名で8月8日(土)に実踏を行い、コース設定、昼食場所などを確認しました。

葛飾柴又は、江戸川に抱かれ、昔ながらの信仰と生業で、参道の街並みやにぎわいなど、今も息づき、風情・情緒を醸し出しています。平成30年2月には「重要文化景観」に選定されました。また、“寅さん”の「山田洋二ミュージアム」「寅さん記念館」も見学しようと考えています。

詳細は、10月22日発行予定の「事務局だより」でご案内いたします。今から計画に入れて参加のご準備(ご友人への声掛けなど)をしてください。



「未就業者グループ懇談会」を開催します

—「なかなか仕事が見つからない」方、ふるってご参加を！—



武蔵野市シルバー人材センターには現在、約1100名の会員がおられますが、そのうち約30%の方が就業されていません。それには、「希望に合った仕事が見つからない」「選考方法が良く分からない」「配分金が少ない」等々、さまざまな理由があるかと思えます。

そこで、地区担当理事、事務局担当者が出席して、別表の日程で「未就業者グループ懇談会」を開催いたします。当日は、未就業の方々と親しく懇談し、互いの意見を交換していく予定です。そして、貴重なご意見を参考に、ご期待に沿えるセンターづくりを目指していきたく存じます。

なお、新型コロナウイルス対策と、内容の充実を図るため、担当地区を分けて、小グループ(5~6名程度)による懇談とさせていただきます。ご希望の方は、該当される方のご自宅へお届けする「往復はがき」に、必要事項をお書きの上、11月18日(水)までに、シルバー人材センター「未就業者グループ懇談会」宛、お申し込みください。多数の方のご参加をお待ち申し上げます。

開催月日	開催時間	開催場所	担当地区
12月 2日(水)	10時30分~12時	センター2F ホール	吉祥寺北町・東町・本町、御殿山
12月 7日(月)		センター2F ホール	西久保、関前、吉祥寺南町
12月 9日(水)		センター2F 講習会室	境、八幡町、緑町
12月15日(火)		センター2F ホール	中町、境南町、桜堤

私のふるさと

—— 第24回 北海道岩見沢市 ——

西久保
川上 淑子 会員



★連日の酷暑にうんざりしていましたがこの取材(ご本人の了解を得てコロナ対策をした上で取材しました)で思わぬ涼を得ました。たっぷりした丈長の麻の白い上着に白のパンツ、素足に白靴。紺の帽子がお似合いの川上淑子さん、お話いただいたのは果てしなく広がる雪原や馬たちが身近にいる岩見沢の風物です。

●岩見沢市は札幌から車で1時間位の道央にあります。石炭産業が盛んな頃に炭鉱によって栄えた町で特に全国各地への輸送網の要として重要な地でした。炭鉱廃止以降すっかりさびれてしまい、今は札幌から近い地の利と、大正池、バラ園や菖菖園などの憩いの場もあり、ベッドタウンとして開発されています。

私は浦和生まれですが、小学校2年の時に母の郷里の岩見沢に引っ越し、はたち過ぎに東京でしかできない希望の職に就きたくて親戚一同を説得して上京するまで過ごしました。東京暮らしの方が長くなりましたが、時代と土地柄の大きな差異に改めて気づかされます。

豪雪地帯なので冬には毎朝玄関から除雪車が通る表の通りまでの「雪はね」は日課でした。学校や弟が通う幼稚園などは自宅から伯母の家まで歩いて行った先がありました。わざと誰の足跡もないところに踏み込むのが快感で、場所によっては胸元位まで積雪があり、後ろに弟を従えて進路を切り開くのは大変です。グラウンドや競技場が連なる辺りは行けども行けども果てしなく、このまま家まで帰れるかしらと泣きたい気持ちになりました。

当時は荷物の運搬に「馬そり」が使われていて、そり跡は雪が踏み固められてツルツル。先生に叱られるのはわかっていても馬そりの後ろにつかまってツーっと滑るのは最高に面白かったの。



▲小学校校庭に水をまいた手作りのスケートリンクで遊ぶ小中学生(中央3人の左端が川上さん)

★馬そりですか?! 写真でしか知りません。さすが北海道ですね。

●北海道の馬は「道産子」と言われ身体がごつくて脚も太くて力持ちです。雪道で大量に荷を運ぶのにむいていて当時は結構見かけました。時には「馬市」もあっ

て学校へ行く途中に遭遇してしまうと、鼻を膨らませてグワッと息を吐き首を振り、蹄で地面を掻いたり、つい見とれて時間を忘れてしまう。いつまでも来ない…と周りの大人たちに心配される始末でした。

★周りの皆でよその子もうちの子も分け隔てなく面倒見ていた時代ですね。旅人への遇しかたも温かいようです。

●北海道を旅した人から思いがけない親切やもてなしに感激した話を聞いて思い当たるのは「ご飯食べてたらいっしょ」という気軽な誘いがごく普通だったこと。見ず知らずの旅人なのに「お風呂入ってけばいっしょ」なんて言われると東京人はびっくりして恐縮しますよね。北海道人の素朴なおおらかさと東京人の細やかな気遣い、極端に異なる両方の地域で暮らしてみても、なるほど土地柄でこんなにも差があるものかと思いました。

★北海道は全国から開拓者たちが入植した歴史があるため違いを許しあう、他者と助け合っていく生き方が必要でした。北海道ほど広さが人口過密の大都会では狭いところに肩寄せあって暮らすための距離感が必要なのでしょう。

●北海道育ちの人共通に、おおらか、こだわりのない、前向き等の気質が挙げられます。残念なことにコロナ禍では人と距離をとって、なるべく密に接しないことが新しい生活ルールだと言われます。物理的な距離はとって心の持ちようは近くあってほしい。例え見ず知らずでも困っていれば手を差し伸べる優しさを失わずにいたいものです。



▲友人と担任の先生のお宅にて(左側が川上さん)

★先の見えないwith Coronaの時代であればこそwith Cocoro(心込めて)、出来ないことを嘆いて止まらず、今だからこそできることを見つけて先へ進みたいとおっしゃる川上さん、未知の引き出しをたくさんお持ちの幅広さを感じました。密に接する時間は短くという制約がなければ、もっとお話を伺いたかったです。

(聞き手 高山編集委員)



リレーエッセイ

釣りの楽しみ

吉祥寺本町 山本 久光

私の趣味は釣りと登山ですが、ここでは私の釣りをご紹介しします。

釣りは自然条件(風雨、潮など)に大きく影響を受けますが、自分で工夫する範囲も広く、それが楽しみの一つです。潮を読み、棚を探り、仕掛けなどの工夫です。ピタリとハマり釣れると大満足な日になります。でも全く釣れず坊主になり落ち込む事もしばしばあります。

もう一つは、星が出ているころに釣座に到着し、白々と夜が明けていく空の移り変わりを眺めているのも、自然に溶け込んだ感があり好きな時間です。更に嬉しいのは、釣った魚を新鮮な状態で食べることができのです。特にお刺身になると、身がしまつてコリコリして美味しいのです。

釣り方は様々ですが、私は防波堤での遠投力ゴ釣り(がメイン)で、対象は回遊魚とマダイなどです。仕掛けを力一杯遠投し、浮きが沈むのをじっと待つ。何度も投げ、何度も待つ。時に浮きが沈み、合わせて巻き上げる。引きの強さを楽しみつつ、引き具合で魚の種類やサイズを想像する。この時はワクワドキドキです。釣り上げてサイズがまらずなら嬉しいし、でもなくとも坊主逃れでホツとする瞬間です。止められないし、登山もですが、ずっと続けたいと思つてます。

次回は学校施設管理班の藤岡さん(吉祥寺本町)にバトンをお渡しいたします。



私のチャレンジ教室

チャレンジ 吉祥寺南町 前田 義弘

今年からシルバー人材センターに登録しました前田です。よろしくお願ひします。

私は3年ほど前に神奈川県平塚市から武蔵野市に引っ越してきました。当時89歳になる女房の母が一人暮らしをしております、一緒に住んで面倒を見ようということで越してきました。残念ながら母は引っ越してから1か月半後に他界してしまいましたが、武蔵野市には母が経営していたアパートもあり、その面倒も見なくてはいけなくて、そのままここにとどまることになりました。

私自身、武蔵野市には知り合いもなく、この土地でのネットワークを作りたく今年の4月からシルバー人材センターに登録をすることとさせていただきました。現在、シルバーでのお仕事は「便利班」[介護・障子班]「広報紙配布班」に所属しています。諸先輩のご指導を受けながら、仕事を楽しくやっています。お仕事を始めてみてうれしかったことは、ご依頼の方のところへ直接行き、作業が終わると大変喜んでいただけることです。今までの会社員時代での仕事は、直接使う人とは接するこ



▶愛犬メルと

とがあまりなく、ユーザーの直接の言葉は聞くことはあまりありませんでしたので。

ところで、吉祥寺を抱える武蔵野市でのお仕事なのでさぞや、シルバーの人もおしゃれでスマートの方が多いと思っていたのですが、そこら辺にいる普通のおじさんだったので安心しました。今後ともよろしくお願ひいたします。

ひろば

「ひろば」について考えてみた。

「ひろば」と「公園」の違いは、「公園」は人工的に造られた「ひろば」で、そこを利用するには何らかの規制、入園料・利用規則等いろいろな制約がかかる。

一方、私が思う「ひろば」は子供のころ、小さい空間で、ベーゴマ・メンコ・野球・バドミントン・ドッジボール等で自由に遊び、

行き過ぎた行動をすると、周りで見えていたおばさんたちに注意され、

子供たちは社会常識を身でもって学んできた場所と思っている。

今は他人の子供を叱るとプライバシーの侵害だとか言われ、大人の方が委縮し、規制は正義だと思っている人が大部分だと思う。

今の子供は失敗しないように、怒られないようにいい子の行動をとるようになり、自由奔放さがなくなってきていると思う。

日本国民全部が「いいこ」になったらどんな世の中になるのだろう・・・。

H.ANDO



編集後記

相変わらずのコロナ禍、ふるさとの取材お願いの電話で事も無げに「安全対策をちゃんと取れば対面でお話の方が実感が沸くでしょ？」とおおらかに応じてくださった。実はそうなんです！ こうして広～い部屋でスクリーンを間にお話を伺った。長時間にならないように、話に夢中になって前のめりにならないように…目一杯気遣う私に優しくかったです、川上さん。感謝！

(高山)